

2013年9月10日  
日興アセットマネジメント株式会社



本レポートでは、足元の投資環境および今後の見通しについて、ファンドの主要投資対象である「ゴールドマン・サックス・グロース・マーケット・エクイティ・サブ・トラスト」の運用会社であるゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントからのコメントをご紹介します。

## 足元の投資環境と今後の見通し

### 中長期的な成長性を考慮すれば、グロース・マーケットの株式市場は、足元で魅力的な株価水準と判断される

グローバル経済は、依然として不透明感が残る状況にあります。ただし、米国では、住宅市場の回復に伴う個人消費の堅調などを背景に、景気が回復傾向となっているほか、欧州では債務問題に落ち着きが見られるなど、先進国を中心に明るい兆しも確認されています。

8月は、米国の量的緩和縮小観測の高まりなどを背景に、新興国からの資金流出懸念が拡がり、新興国通貨が売られる展開となりました。特にインドやインドネシアなど、経常赤字国を中心に新興国通貨が売られ、グロース・マーケットでは、中国、韓国を除き、対円で多くの国の通貨が下落することとなりました。また、通貨下落は、輸入物価の上昇を通じて、その国のインフレ圧力を高める要因となることから、物価上昇に伴う景気後退が懸念され、これらの国の株式も売られる状況となりました。

ただし、先進国を中心とした景気回復に伴ない、新興国の景気も、徐々にではありますが、やがて回復することが見込まれます。株式市場に目を向けると、各国の株価水準は足元で、中国を中心とした景気減速懸念を一部では過度に織り込んだ状態になっていると考えられます。そのため、中長期的な成長性を考慮すれば、グロース・マーケットの株式市場は、足元で魅力的なバリュエーション水準にあり、株価の上昇余地は大きいと考えています。

上記は、「日興GSグロース・マーケット・ファンド(愛称:グロース8)」の主要投資対象である「ゴールドマン・サックス・グロース・マーケット・エクイティ・サブ・トラスト」の運用会社であるゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントからのコメントです。当コメントは、資料作成時点における市場環境もしくは今後の運用方針等について、運用担当者の見方あるいは考え方などを記載したものであり、将来の市場環境の変動や将来の運用成果などを保証するものではありません。

※グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

## グロース・マーケットのなかでは メキシコおよび中国の景気回復に期待

特にメキシコでは、輸出の約80%が米国向けであることから、米国の景気回復の恩恵を大きく受けることが考えられ、メキシコの積極的な構造改革やインフラへの投資は中長期的に見ても株式市場にとって支援材料になると考えられます。

また、景気の減速が懸念されている中国についても、中国国家统计局が、2013年の目標である7.5%の経済成長の達成は可能との認識を示し、投資家心理は改善してきています。なお、経済指標においても改善がみられつつあり、中国物流購買連合会が大企業を中心に調査している製造業PMI(購買担当者指数)が、新規受注の改善などを背景に8月は、景況感の好・悪の境目となる50を上回り、予想も上回る水準となりました。また、中小企業が調査対象に多く含まれる英金融機関発表の製造業PMIにおいても、8月は50を上回る水準に回復しました。弊社では、今後6ヵ月から12ヵ月にかけて中国経済は徐々に回復してくるものと考えています。

## グロース・マーケットの強い内需の恩恵を受ける 銘柄を引き続き選好

弊社では引き続き、グロース・マーケットの強い内需の恩恵を受ける銘柄を選好します。なお、内需関連の中でもしっかりと個別銘柄を選別し、たとえば中国では、好調なインターネット分野での成長を享受する企業を強気とする一方、今後の収益悪化が見込まれる銀行セクターなどについては弱気としています。中長期的には、特にBRICs諸国における1人当たり所得の著しい増加は、グロース・マーケットの経済発展を牽引する重要な要素と考えています。所得の増加は消費の拡大、経済の発展をもたらします。これらの経済発展は、労働人口の増加、労働参加率の上昇、過去と比べてより教育水準が上がり、都市化された人々の増加などによって、さらに高められると予想されます。

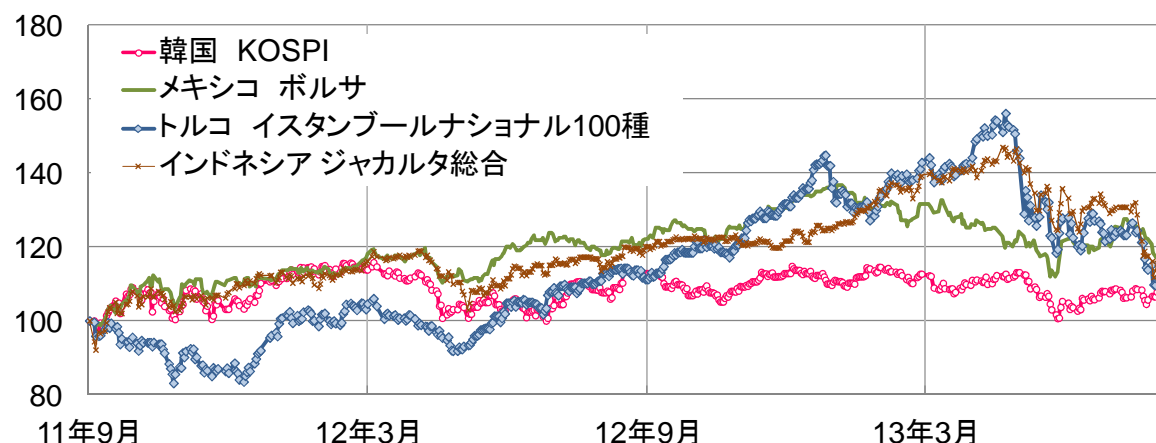
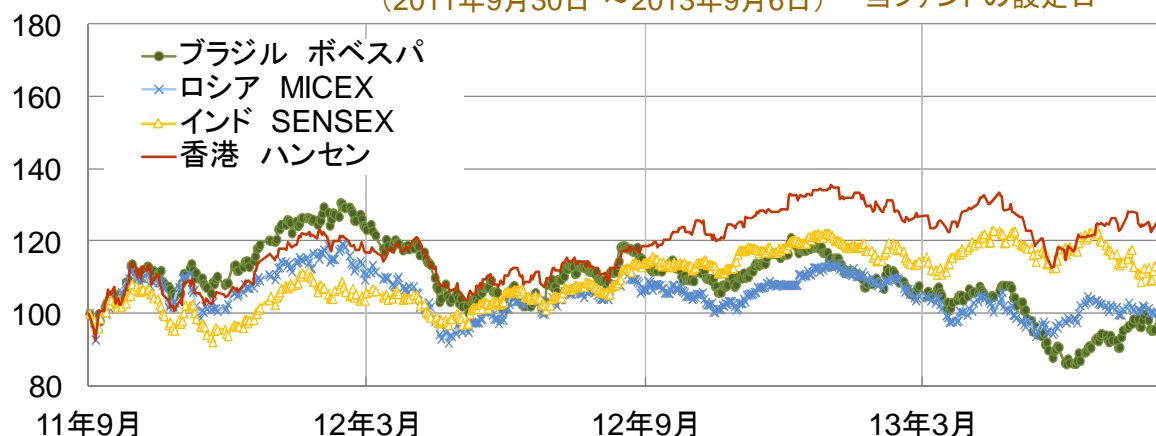
※ 個別セクターに言及していますが、これらの売買を推奨するものでも、ファンドへの組入れなどを約束するものでもありません。

上記は、「日興GSグロース・マーケット・ファンド(愛称:グロース8)」の主要投資対象である「ゴールドマン・サックス・グロース・マーケット・エクイティ・サブ・トラスト」の運用会社であるゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントからのコメントです。当コメントは、資料作成時点における市場環境もしくは今後の運用方針等について、運用担当者の見方あるいは考え方などを記載したものであり、将来の市場環境の変動や将来の運用成果などを保証するものではありません。

# ご参考：投資対象8カ国の株式市場の動向

## ＜株価指数の推移＞

(2011年9月30日\*～2013年9月6日) \* 当ファンドの設定日



※上記はそれぞれグラフ起点を100として指数化しています。  
 ※上記指数は、当ファンドのベンチマークではありません。

## ＜予想PER（株価収益率）＞

	2010年12月末	2011年12月末	2012年12月末	過去平均*	2013年8月30日
ブラジル ボベスパ	12.9 倍	10.1 倍	18.2 倍	12.0 倍	15.0 倍
ロシア MICEX	8.7 倍	5.1 倍	4.9 倍	6.8 倍	3.4 倍
インド SENSEX	19.4 倍	13.5 倍	14.8 倍	15.4 倍	14.2 倍
香港 ハンセン	14.4 倍	10.1 倍	11.9 倍	12.4 倍	10.4 倍
韓国 KOSPI	11.9 倍	10.0 倍	9.9 倍	10.7 倍	9.6 倍
メキシコ ボルサ	18.8 倍	15.7 倍	17.7 倍	15.7 倍	16.5 倍
トルコ イスタンブールナショナル100種	10.8 倍	8.9 倍	11.8 倍	9.8 倍	9.1 倍
インドネシア ジャカルタ総合	17.9 倍	15.2 倍	16.2 倍	14.0 倍	14.0 倍

\* 過去5年間(2008年8月末から2013年8月末)の月末値データの平均です。

※上記指数は、当ファンドのベンチマークではありません。

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「日興GSグロース・マーケット・ファンド(愛称:グロース8)」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

# 「グロース8」の運用実績

## ＜基準価額の推移＞

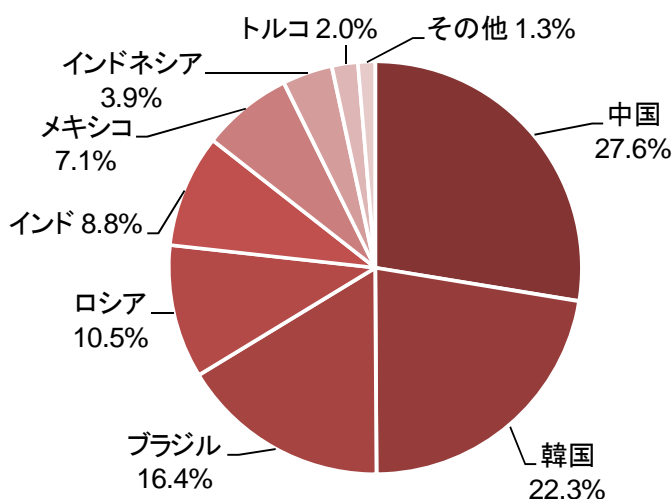
(2011年9月30日(設定日)～2013年9月6日)



※基準価額は、信託報酬控除後の1万口当たりの値です。信託報酬の詳細につきましては、後述の「手数料等の概要」をご覧ください。  
 ※基準価額(税引前分配金再投資ベース)は、税引前分配金を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

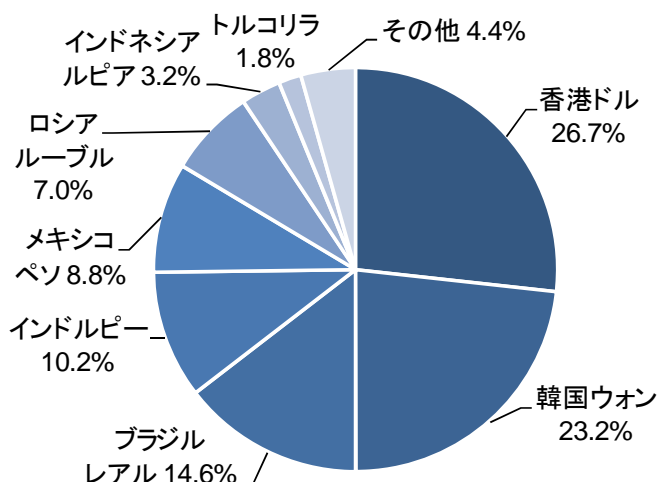
## ＜国別構成比＞

(2013年7月31日現在)



## ＜通貨別構成比＞

(2013年7月31日現在)



※比率はゴールドマン・サックス・グロース・マーケット・エクイティ・サブ・トラストの組入株式時価総額比です。  
 ※国別構成比については、実質的な投資先の国に分類して計算しています。  
 ※通貨別構成比については、原則として実質的な投資先の国の通貨に換算して計算しています。  
 ※上記数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

※グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「日興GSグロース・マーケット・ファンド(愛称:グロース8)」へのご理解を高めたいとすることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

## お申込みの際しての留意事項①

### ■ リスク情報

投資者の皆様のご投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

### 【価格変動リスク】

- 株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- 新興国の株式は、先進国の株式に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。
- 公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。

### 【流動性リスク】

- 市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- 新興国の株式は、先進国の株式に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

### 【信用リスク】

- 投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト(債務不履行)や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- 公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト(債務不履行)が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。

(次頁に続きます)

## お申込みにあたっての留意事項②

(前頁より続きます)

### 【為替変動リスク】

- 外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- 現物資産の外貨建て部分については、世界各国の為替関連デリバティブ取引や為替予約取引などを積極的に行なうため、為替変動の影響を大きく受けます。
- 一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

### 【カントリー・リスク】

- 投資対象国における非常事態など(金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など)を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- 一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

### 【デリバティブリスク】

- 金融契約に基づくデリバティブとよばれる金融派生商品を用いることがあり、その価値は基礎となる原資産価値などに依存し、またそれらによって変動します。デリバティブの価値は、種類によっては、基礎となる原資産の価値以上に変動することがあります。また、取引相手の倒産などにより、当初の契約通りの取引を実行できず損失を被るリスク、取引を決済する場合に反対売買ができなくなるリスク、理論価格よりも大幅に不利な条件でしか反対売買ができなくなるリスクなどがあります。

※ ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

### ■ その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様にご帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認ください。お客様ご自身でご判断ください。

■ 当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

## ファンドの特色

- 1 新興国の中でも、世界経済の成長に大きな貢献が見込まれる国々を『グロース・マーケット』として選別し、主な投資対象とします。
- 2 『グロース・マーケット』の株式を対象に、ボトムアップ・リサーチにより投資銘柄を厳選します。
- 3 実質的な運用は、「ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント」が行ないます。

## お申込みメモ

- 商品分類 : 追加型投信／海外／株式
- ご購入単位 : 購入単位につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
- ご購入価額 : 購入申込受付日の翌営業日の基準価額
- ご購入不可日 : 購入申込日がニューヨーク証券取引所の休業日、英国証券取引所の休業日、香港証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日、ロンドンの銀行休業日、香港の銀行休業日のいずれかに当たる場合には、購入のお申込みの受付は行ないません。  
※詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 信託期間 : 2021年8月30日まで(2011年9月30日設定)
- 決算日 : 毎年8月28日(休業日の場合は翌営業日)
- 収益分配 : 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。  
※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- ご換金価額 : 換金請求受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した額
- ご換金不可日 : 換金請求日がニューヨーク証券取引所の休業日、英国証券取引所の休業日、香港証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日、ロンドンの銀行休業日、香港の銀行休業日のいずれかに当たる場合には、換金請求の受付は行ないません。  
※詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- ご換金代金のお支払い : 原則として、換金請求受付日から起算して8営業日目からお支払いします。
- 課税関係 : 原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。  
※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。  
※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。  
(2014年1月1日以降)  
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## 手数料等の概要

お客様には以下の費用をご負担いただきます。

### <お申込時、ご換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料 : 購入時手数料率は、3.675%(税抜3.5%)を上限として販売会社が定める率とします。  
※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

換金手数料 : ありません。

信託財産留保額 : 換金時の基準価額に0.3%の率を乗じて得た額

### <信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

信託報酬 : 純資産総額に対して年率1.992%(税抜1.94%)程度を乗じて得た額が実質的な信託報酬となります。信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率1.092%(税抜1.04%)、投資対象とする投資信託証券の組入れに係る信託報酬率が年率0.9%程度となります。受益者が実質的に負担する信託報酬率(年率)は、投資対象とする投資信託証券の組入比率や当該投資信託証券の変更などにより変動します。

その他費用 : 目論見書などの作成・交付および計理等の業務にかかる費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%以内を乗じて得た額が信託財産から支払われます。  
組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などについては、その都度、信託財産から支払われます。  
※組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。

※ 当ファンドの手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## 委託会社、その他関係法人

委託会社 : 日興アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号  
加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

受託会社 : 三井住友信託銀行株式会社  
(再信託受託会社: 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)

販売会社 : 販売会社については下記にお問い合わせください。  
日興アセットマネジメント株式会社  
[ホームページ] <http://www.nikkoam.com/>  
[コールセンター] 0120-25-1404(午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

### 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1977号	○			

(50音順、資料作成日現在)

■ 当資料は、投資者の皆様へ「日興GSグロース・マーケット・ファンド(愛称:グロース8)」へのご理解を高めたいとすることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。